

## 終業式挨拶

皆さんおはようございます。

いよいよ明日から夏休みに入ります。夏休みといっても受験を控えている3年生の皆さんはとても貴重な時間を過ごすことになると思います。1、2年生の皆さんも勉強や合宿で忙しい人も多いと思います。また、9月には体育祭や文化祭も控えています。おそらくしなければならないことは多いと思いますし、漫然と何もしないで夏休みを過ごす人はいないと確信しています。

暑い日が続きますので体調管理には注意をして、充実した夏休みを過ごしてください。

さて、今年の「進路のてびき」の巻頭言に読解力をつけることの大切さについて触れました。その中で、読解力と新聞を購読していることに相関関係があるという調査結果があると述べました。皆さん覚えていますか？

2学期より本校の図書館に新聞を2紙置くことにしました。家で新聞を読む時間がない人は、是非活用してください。

皆さんは、2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞し、iPS細胞研究所所長の山中伸弥さんのことはもちろん知っていますね。山中伸弥さんは、整形外科医として挫折を経験して研究者の道へと進まれたこと、そして「うつ病」を克服されたことでも有名です。今日は、山中伸弥さんの言葉を紹介して、終業式の挨拶にしたいと思います。

二十歳前後の5年間というのは、何にも代えられない宝物みたいな時間だということです。何をやったら正解というのはいない。でも何もしないのだけはやめてほしい。どんなことでもいいから「あの時はこんなことに夢中になっていたな」というのがあったなら、それがうまく行こうが行くまいが、絶対自分自身の成長につながっていく。どんな失敗をしてもいい。学生時代にやった失敗は絶対に無駄にならない。

平成29年7月20日 大阪府立春日丘高等学校長 福留 明富